

# 会派調査(研修)報告書

NO.

令和5年 11月 17日

胎内市議会議長

小野 徳重 様

(報告者) 緑風会

会長 薄田 智

緑風会 会派行政視察 について、  
議会会議規則第110条により、下記のとおり報告します。

調査・研修 日時	自 令和5年10月25日 至 令和5年10月27日 2泊3日(3日間)	調査・研 場 所	① 北海道稚内市 ② 北海道小樽市
調査・研修 事項	① 北海道稚内市 再生可能エネルギーの推進について ② 北海道小樽市 おたる案内人ジュニア育成プログラムについて		
調査・研修 出席者(参加者)	会長 薄田智 副会長 渡辺秀敏 幹事長 八幡元弘 会計 笥智也 渡辺宏行 坂上清一 増子達也		
相手方(対応者)	① 北海道稚内市 企画総務部エネルギー対策課 課長 山本純 議会事務局庶務課議会グループ 書記 三宮祥平 議会事務局庶務課議会グループ 書記 藤田彩夢 ② 北海道小樽市 産業港湾部観光振興室主幹 企画宣伝担当 松本貴充 議会事務局 事務局長 中村哲也		

## 調査の結果または概要

### 『北海道稚内市』

(人口31,195人 議員定数18人 R5.8現在)

日本最北端に位置し、宗谷海峡をはさんで東はオホーツク海、西は日本海に面する一年を通して風の強い場所である。宗谷岬からわずか43kmにサハリン(旧樺太)がある。水産、酪農、観光を基幹産業とする宗谷地方の行政、経済の中心地である。近年は再生可能エネルギーの活用を力を入れている。間宮海峡を発見した間宮林蔵ゆかりの地でもある。

### 『北海道小樽市』

(人口107,221人 議員定数25人 R5.8現在)

札幌市の北西に位置し、石狩湾に面し他の三方を山地に囲まれた坂の多い港湾都市である。ガラス工芸やオルゴール、酒蔵で有名であり、観光業が基幹産業である。旧漁業施設である鯉御殿では、小樽市において漁業が果たした重要な役割を見ることができている。現在、小樽運河沿いはカフェやショップの立ち並ぶエリアとなっている。

## 調査の所見・感想

### <北海道稚内市>

#### ・再生可能エネルギーの推進について

稚内市では、「環境都市わっかない」として、省エネルギーの推進とともに、再生可能エネルギーの利活用による地域活性化の取り組みを行っている。市内において、大規模な太陽光発電施設や多数の風力発電施設が稼働しており、国より「特定風力集中整備地区」の指定を受けている。その他に生ごみ中間処理施設のバイオガスの活用、冬期間の風や低温を活用した雪氷冷熱貯蔵庫など、多様な再生可能エネルギー施設が存在する。

稚内メガソーラー発電所は、平成18年から5年間、NEDO(独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)が実証実験施設として運用した後、稚内市に無償譲渡した施設である。その概要は、敷地面積14ヘクタール(東京ドーム約3個分)、太陽光パネル約28,500枚、発電量5,020キロワット(一般家庭1500世帯分)の規模である。発電した電気は隣接の稚内市大沼球場と道立宗谷ふれあい公園へ供給し使用している。また、余剰電力は北海道電力に売電を行い、年間1億5千万円収支である。このメガソーラー発電の他に、風力発電、小規模風力発電、自然冷熱利用貯蔵庫などにも取り組んでいる。風力発電施設では105基、220,680キロワット、市内の年間電力消費量の3倍強の発電が可能である。風力発電の事業主体は様々であるが、稚内市や地域・地元の事業者が事業主体となって運用している施設もあり、地域に貢献している。さらに、自然冷熱を利用した貯蔵庫で、「勇知いも(じゃがいも)」を保管することで果物並みの糖度となり、「稚内ブランド」として脚光を浴びるまでとなっている。

稚内市では、地域の地理的・気候的な条件、特徴を利用しながら多様な再生可能エネルギーへの取り組みを行い、試行を重ね、いかに地域に貢献するか地域の特性を活かすかを考慮しながら地域活性化を行っているとの印象を受けた。風力発電事業のメンテナンスも含めた地元企業の雇用についても伺い、今後の稚内市のまちづくりにつなげていきたいと考えている。そして、再生可能エネルギーを推進している先進自治体においても、市民や市民生活にこれらの事業のメリットや恩恵が見える形で、肌感覚で感じ取れるようにしていくことが大切であり課題でもあると、先進地の視察を通して感じ、当市でも非常に参考となる内容であった。

## <北海道小樽市>

### ・おたる案内人ジュニア育成プログラムについて

小樽市では、子どもたちが小樽の歴史や文化を学ぶことで、郷土愛を醸成し、観光ガイドを行うことを通じて表現力などを育むことに取り組んでいる。おたる案内人検定合格者が講師となり、小学校5・6年生が総合学習の時間で実施している。知識を得るだけでなく、実際に観光客に観光ガイドを実践するプログラムであり、子どもたちの素直なおもてなしの気持ちが観光客に伝わり、小樽市のイメージアップにもつながっている事業である。

平成18年に産学官により、小樽の持つ“真の魅力”に触れてもらうために「小樽観光大学校」を設立し、小樽観光の本質を捉えた人材育成を目指している。小樽観光大学校では、①小樽の観光産業を支える人材の育成、②市民レベルでのホスピタリティ意識（おもてなしの心）の醸成を目標として活動しており、この活動から派生した事業として、おたる案内人ジュニア育成プログラムが行われている。

小樽観光大学校が実施している「おたる案内人マイスター検定」の合格者が中心となり、市内の小学校6年生が小樽運河や倉庫など市内の観光スポットを案内しながら、歴史や変遷などを伝え、小樽市の魅力や見どころを紹介していく内容である。小樽市の歴史、文化を知識として蓄えるとともに、自分の住む街について再発見、再確認しながら郷土愛の意識づけにも寄与しているとのことであった。学校の授業との兼ね合いなど課題もあるが、観光を基幹産業としている小樽市としては重要な取り組みの1つと捉えているように感じた。当市においても、歴史や伝統、地域で大切に受け継がれている行事や芸能が数多く存在するので、この視察を通して、再認識する契機となった。